

イングランド銀行が4会合連続の利上げ 国債売却の計画を8月に提示し、その後の会合で開始を検討へ

2022年5月6日

成長減速と中期インフレ圧力低下を予想し、追加引き締めへ慎重姿勢も

イングランド銀行（BOE）の金融政策委員会は5日、政策金利を0.75%から1%へ引き上げました。昨年12月以降、4会合連続の利上げです。0.25%ポイント利上げは6対3の賛成多数で、少数派は0.5%ポイント利上げを主張しました。労働市場の逼迫とコスト・物価上昇圧力の持続リスクを考慮しての利上げです。

BOEは、短期的なインフレの上方圧力と、経済活動や中期的なインフレの下方圧力が強まったと指摘しました。エネルギー価格上昇を反映して今年10-12月期にCPI（消費者物価指数）前年比は+10%超まで上昇し、労働市場の逼迫で家計の名目所得の伸びも高まると予想しています。しかし、インフレが家計の実質所得と企業利益率に大きな悪影響を及ぼし、経済成長が急減速すると予想しています。時間とともに需要鈍化で供給過剰が拡大し、インフレ圧力は収まる（3年後のCPI前年比は+1.3%）と予想しています。

経済成長減速への警戒感が金融政策に影響する可能性があります。「ほとんどの委員が今後数カ月の間にある程度の追加利上げが適切になるかもしれないと判断」とのガイダンスに対し、2人の委員が強過ぎると異論を唱えました。今後のデータが成長減速と中期インフレ圧力低下の見通しを強めれば、利上げ慎重派が増えそうです。政策金利が1%に達したので、BOEは以前のガイダンス通り、保有する英国債の売却を検討しますが、8月会合で売却計画を提示し、その後の会合で売却開始を検討するとしました。追加金融引き締めへの慎重姿勢が垣間見えます。英長期金利とボンドにとっては上昇抑制要因になりそうです。

BOE政策金利と英長期金利



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

英長期金利とボンド円



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。